

救急医療、がん診療体制の充実に向け 救急棟を増築します

当院では、小児二次救急を含めて救急医療およびがん診療体制を充実するため、平成26年4月の開設を目指して、現在の救急外来部門に接続する形で、救急棟を増築します。

増築する施設は2階建てで、増築規模は延べ床面積約660㎡を予定しております。

1階には、救急部門として、救急の診察室、観察ベッド、処置室などを増やすとともに、新規に小児感染症用の診察室を設置します。また2階は、抗がん剤治療を行う化学療法部門、胃カメラなどによる内視鏡検査部門を移設するとともに、化学療法部門の専用ベッド、内視鏡部門の検査室を増設し、施設・設備の拡充を図ります。

増築工事のスケジュールは、平成25年1月に着工し、平成26年2月竣工、4月の開設を目指しています。

なお、工事期間中は、通路の制限、騒音、振動等、何かと患者様にはご迷惑をおかけすることと存じますが、何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

お問合せ先：病院総務課



採血室をリニューアルしました

採血室をリニューアルし、よりご利用しやすく変わりました。隣の採血台との間に仕切りができ、患者さんの身長に合わせて採血台の高さも自動で調節できるようになりました。

採血は誰でも嫌なものです。少しでも快適に採血していただけるように、これからも努力してまいります。



早朝採血(8時～)をご利用ください

当院では、待ち時間の短縮と、診療が円滑に行われる為に、診療開始前の午前8時から、採血・採尿室をご利用いただけます。診療の予約時間が朝早い方は、ご利用ください。

病院経営計画（平成24～26年度）を策定しました

本院ではこれまでも病院経営健全化計画を策定し、経営健全化の取り組みを続けてきたところですが、平成23年度の決算では21年ぶりに黒字決算に転換することができました。

平成24年度からの新たな経営計画では前計画の進捗状況を踏まえ、従来より着手していた医師や看護職員の確保、収入の増加と支出の削減に引き続き取り組むとともに、下記の5項目については重点推進項目として積極的に取り組んでいきます。

①各種がん診療体制の充実

県央地区唯一の地域がん診療連携拠点病院として、専門的ながん医療、地域のがん診療連携体制、がん患者に対する相談支援及び情報提供の強化・充実に努めていきます。（化学療法室や内視鏡室の移設と拡充を予定しています。）

②小児医療の拠点化・周産期医療の充実

地域の小児医療を支える医療体制を確立するとともに、周産期医療の充実を図るため、人材の確保と施設整備を進めています。（NICUの増床や小児救急外来棟の増築を予定しています。）

③地域の医療機関等との連携強化

地域医療連携室の体制を充実し、病診（本院と診療所）連携、病病（本院と他病院）連携、福祉・保健関連の諸機関との連携を強化し、地域の基幹病院として地域完結型の医療の実現に貢献していきます。

④災害発生時の体制整備

災害拠点病院として災害発生時において診療機能を維持継続させるための環境整備を行います。（災害発生時用の備蓄品の確保や医療機器の整備を予定しています。）

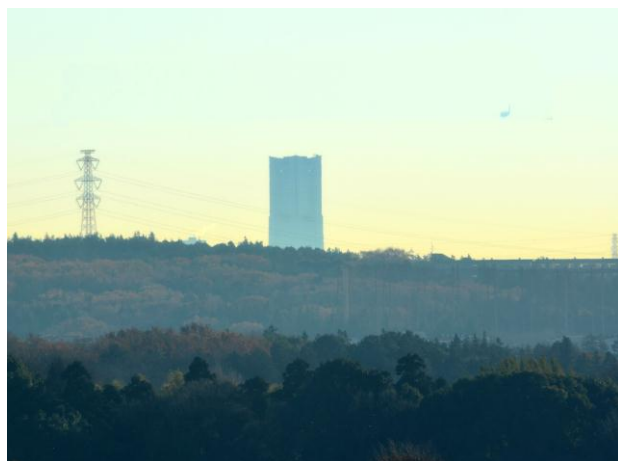
⑤医療安全対策の強化

安心・安全な医療サービスを受けられるよう、医療安全管理体制を強化します。担当する医療安全管理室では、安全管理に関する調査、分析、指導等を行っています。

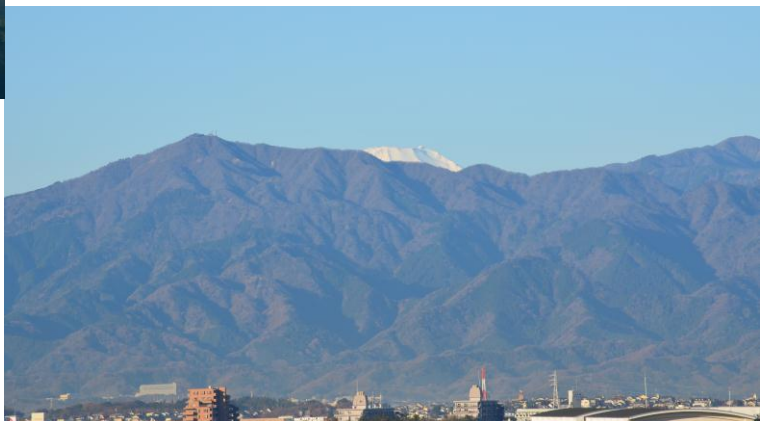
病院からの景色

大和市は神奈川県のおおぼ中央に位置し、平坦な大地であり、周囲には高層ビルがありません。そのため、市立病院からは様々なものが見ることができます。

←7階の談話室から、東の方角、東名高速道路のずっと向こう側に、みなとみらいのランドマークタワーを見ることができます。すっきり晴れた日にしか見えませんが。。



→西の方角には、標高 1252mの大山を大きく見ることができ、その奥にちょこんと頭を出した富士山を見ることができます。写真は7階から撮影しましたが、実は、救急外来前からも見ることができ、筆者は毎朝、富士山を見てから病院に入っています。



ムンプスワクチンについて

小児科医 早野 聡子

みなさんは、ムンプスワクチンをご存知でしょうか？ムンプスは流行性耳下腺炎、おたふくかぜとも呼ばれ、多くの方が生涯に一度感染する病気です。ムンプスウイルスによる全身性感染症で、耳下腺(耳の下)が腫れるのが特徴です。ウイルスを含む気道分泌物や唾液に接触して感染し、ウイルスに感染してから2～3週後に片側または両側の耳下腺が腫れてきます。

多くの方は自然に治りますが、髄膜炎・精巣炎・卵巣炎・睪炎・脳炎・難聴などの合併症が起こることがあります。3～10%の人が、嘔吐・頭痛などの症状をおこす無菌性髄膜炎を発症します。当院にも毎年数名が入院しています。精巣炎は子どもでは稀ですが、成人男性の25%に合併します。脳炎は、頻度は稀ですが死亡することがあります。難聴は片側に高度の難聴が残ります。難聴の頻度は、400～1000人に1人と報告されており、想像以上に高い可能性があります。一度難聴になると一生治りません。

ムンプスには治療法がないため、ワクチンで感染を予防することが重要です。ムンプスワクチンはウイルスの毒性を弱めた生ワクチンで、1歳を過ぎたら接種できます。副反応には接種後の発熱・耳下腺の腫脹や髄膜炎がありますが、自然感染に比べてはるかに少ない頻度です。わが国では1989年に麻疹・ムンプス・風疹ワクチン(MMRワクチン)が定期接種となりましたが、髄膜炎の発症率が高かったため、1993年に中止となりました。現在は髄膜炎の副反応が少ないムンプスワクチンが使用されていますが、有料の任意接種のため、接種率は3割と低率であり、今でもムンプスの流行が続いています。世界の多くの国では定期接種になっており、ムンプスの発症者数は著明に減少しています。現在、厚生労働省はムンプスワクチンの定期接種化を計画していますが、時期は未定であり早目の接種をお勧めします。



総合防災訓練を実施しました！

当院では、毎年、職員の防火・防災意識の向上を図り被害軽減に努めるために、総合防災訓練を行っています。今年も9月27日に、6階南病棟を出火場所と想定して訓練を実施しました。

当日は、総勢76名の職員が消火班・避難誘導班・救護班などの各班それぞれ仮想患者に分かれて参加し、本番さながらの訓練となりました。参加者からは、「防災意識が高まった」という声が多く聞かれる一方で、「各班の連携がもっと必要」「声かけが足りない」という反省も見られました。



病棟からの避難誘導活動。担架、毛布などを使って救助する患者さんもいます。

起震車による地震体験訓練。過去の地震と同じ揺れを再現できます。



水消火器を使用した消火訓練。大和消防署の方から消火器取扱の説明を受けています。



救護所にて。患者さんの避難状況を確認しています。

トリアージ訓練を行いました

11月に災害傷病者受け入れ活動訓練が開催されました。当院はH10年3月より、県から【災害医療拠点病院】に指定されており、災害時は多くの傷病者の受け入れが想定されています。東日本大震災以降、災害対策が注目されています。当院でも今回2日間にわたり、大規模な災害時傷病者受け入れ活動訓練が行われました。



まずは
この設
営から。
慣れな
い作業
は大変
でした。→



↑金子診療部長のトリアージについての講義。緊急時のトリアージは難しそうです。

男4人でも、担架で人を運ぶのは大変でした。 →

エアーストレッチャーでの搬送。かなりの重労働です ↓



＜トリアージとは＞
人材、資源の制約の著しい災害医療において、最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決定すること



重症な傷病者役の職員。迫真の演技で、緊張感も高まりました。 →



訓練時に来院中の皆様、ご協力ありがとうございました

～助産師・看護師募集中～

＜お問い合わせ先＞
病院総務課 総務調整担当
TEL 046-260-0111 内線 2346

大和市立病院で
一緒に働こう！

